

・事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法

海産物(昆布等)の加工品の在庫を担保としたABL

(金融機関名)福岡銀行

1. 動機(経緯)	海産物加工卸業は、仕入価格が漁の出来不出来や相場で決まるなど安定性を欠いており、業者は「良い物を安い時にできるだけ多く」確保しようとするため在庫負担が大きく、運転資金に占める在庫資金の割合が高いものになっていることなどから、将来に向けた商品開発や人材確保のための前向きな資金のニーズがあっても、捻出が難しい状況にある。当行では、このようなニーズに着目し、平成17年10月より施行された「動産・債権譲渡登記制度」を活用して、商品在庫及び売掛債権等を担保としたABL案件に取り組んだものである。(動産・債権譲渡登記制度の第1号登記案件)
2. 概要	・政府系金融機関と当行とのシンジケートローンで、「在庫 売掛金 流動預金」という事業のライフサイクルに着目し、在庫・売掛金・流動預金を一体として担保取得したうえで、一定の融資枠(極度)を設定するもの。 ・融資後、売掛回収金は担保取得している流動預金口座に入金指定し、債務者は担保対象債権・動産の情報を定期的に貸し手金融機関に提出する。また、財務制限条項などのコベナントを契約条項に盛り込み、当行のガバナンスを発揮。
3. 成果(効果)	< 債務者企業の声 > ・在庫の評価を通じ、事業全体の評価をしてもらえたほか、活用できていなかった在庫を担保に出し入れ自由な融資枠が設定でき、資金調達手段の多様化が図られた。 ・本件取組みの第1号案件としてPR効果が発揮でき、受注の増加など業績にも好影響が生じた。 < 当行の成果 > ・先進的な融資手法について実行事例を積むことができた。 ・登記制度の活用について実務経験を積むことができ、その後のABL業務の進展に弾みをつけることができた。
4. 今後の予定(課題)	・ソリューション営業(問題解決型営業)のツールの一つとして、今後とも顧客ニーズに合わせて提案を行っていく。 ・担保物保全スキームの構築や、スピーディーに対応できる保全・執行法制の整備が、金融機関の利用促進の鍵。

海産物加工卸業者に対する動産登記制度を活用したシンジケートローン型 ABL

・担保・保証に過度に依存しない融資：製品在庫等を担保とした事例

《動産登記制度を活用したシンジケートローン型 ABL (我が国初)》

事業のライフサイクルに着目し、在庫・売掛金・流動預金を一体として担保取得(流動資産一体担保型融資)

一定の極度融資枠を設定

適切なコベナントによる債権者の立場からのガバナンス発揮

